

## [編集後記]

お手許に第8号をお届けする。研究論文4本と、講演採録1本を掲載することができた。いずれも、何らかの形で、本会での口頭発表を経たものである。

投稿の多さに嬉しい悲鳴をあげたものの、そのため、活字を小さく組まざるを得なかった。今後は、さらに投稿しやすい環境を模索しながら、年1回の定期刊行をめざしたいと思う。

長野・言語文化研究会は、見学の集いを含めて今年度で第95回発表会を数えた。研究発表会と会誌の刊行が、研究会の2大柱である。本会は、ことばと文化に関心がある方々を、広く受け入れている。これは、本会を創始された、故 馬瀬良雄先生のご遺志にしたがったものである。先生のお気持ちを大切に受け継ぎながら、会員、非会員を問わず、ことばと文化について深く考え、分かち合うことのできる会が、ながく続くように願っている。充実した会の運営ができるよう、発表、投稿を含め、皆様の積極的なご参加をお願いしたいと思う。 (H. O)